

議 長	会議を再開します。 (午後 2 時 1 0 分)
々	これより、飯田議員の一般質問を行います。 1 番飯田議員。
1 番 飯田議員	<p>お疲れさまです。このたび町民の皆様の温かいご支援をいただき、この場へ立たせていただきました、新人議員の飯田夏樹でございます。この場に立たせていただいている事は、まぎれもなく事実であり、川本町皆様の信頼を裏切らないよう責任を持って務めさせていただきたいと思ひます。議員の先輩方、役場の方々と共に公正な議論及び議会を進めさせていただければと存じます。今現在、心臓の鼓動が激しく動いておりますが、慣れない状況でお聞き苦しい点があると思ひますが、どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>通告書に従ひまして、「女子硬式野球クラブ創設に向けた進捗状況について」、質問します。集う女子選手は、地域おこし協力隊として、チームを運営する一般社団法人かわもと暮らしに所属します。入隊後 3 年間は活動し、任期終了後は野球を続けながら、町の就業先へ就職し定住するか、定住せず他地域の野球チームに所属するか、いろいろな選択があると思ひます。町の理想としては、3 年後も地元企業へ勤務し、野球を続けて地域協力活動を行ってほしいことが、この制度を活用出来たと思へることだと考えております。地域おこし協力隊とは、都市地域から過疎地域などの条件不利地域に住民票を異動し、生活の拠点を移した者を地域（正：地方）公共団体が地域おこし協力隊として委嘱、隊員は一定期間地域に移住して、地域ブランドや地場産品の開発、販売、PR などの地域の支援や農林水産業への従事、住民の生活支援などの地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みとされています。今回の女子野球部クラブも、この制度を活用し 11 名から 15 名くらいの協力隊を受け入れていきたいと聞いております。令和 5 年度の地域おこし協力隊の隊員数については、全国数字ですが約 7, 200 人、約 4 割は女性、隊員の 7 割が 20 代と 30 代、任期終了後およそ 65 % が地域に定着しているデータがあります。女子硬式野球も、このデータの中に当てはまり、定住につながる期待が多く持てるように感じますが、今回の女子硬式野球チーム、地域おこし協力隊の定住に向けた任期のサポート体制と 3 年後に任期を終え、定住される隊員のサポート体制を考えなければならぬと思ひています。まず、定住に向けた任期中のサポート体制と、3 年後に任期を終え定住される隊員のサポート体制はどのように考えているか問うものであります。</p>
議 長	それでは、飯田議員の質問、「女子硬式野球クラブ創設に向けた進捗状況について問う」に対する答弁を求めます。番外伊藤まちづくり推進課長。
番外伊藤ま	飯田議員ご質問の「女子硬式野球クラブ創設に向けた進捗状況について問

ちづくり推
進課長

う」についてお答えします。本事業につきましては、議会からのご提案、ご意見をちょうだいした全日本女子野球連盟の女子野球タウン認定によるタウンプロモーションの強化、地域おこし協力隊制度を活用した新たな人流の創出、さらには事業者や地域でのマンパワー不足などへの課題、また若年層のライフスタイルへの価値観の多様化などを構想の骨格としており、昨年9月の定例会、10月に開催された活性化対策特別委員会において、地域創生の契機とするチャレンジングな取り組みとして提案し、今年度より「女子野球でつながるプロジェクト」として指導しているところであります。現在の進捗状況としては、4月に、大田市出身で、邇摩高校時代には春の選抜高校野球大会に出場し、卒業後はプロ野球に11年間在籍され、その後の独立リーグなどの指導者時代にはプロ野球選手を輩出するなど、指導力に定評のある森山一人氏もりやまかずとに監督に就任いただきました。監督や選手が所属する一般社団法人かわもと暮らしでは、挑戦人口創出グループを新たに設置し、女子野球クラブ創設に向けた体制づくりを進めており、5月には、クラブ創設に係る運営スタッフ1名を地域おこし協力隊として委嘱し、SNSなどによる積極的な情報発信などを行っております。選手の招致については、森山監督が中心となり、大会の視察、学校訪問等を進めており、今後は、本町として、説明会や合同練習会などを開催する予定です。また、6月3日からチーム名の公募を開始したところ、マスコミ報道等もあり、既に全国から多くの反響をいただいております。7月27日の「ええなあまつりかわもと」において、決定したチーム名を発表する予定としております。次に、地域おこし協力隊制度の任期中のサポート体制と任期満了後の定住に向けたサポート体制についてです。任期中は女子野球選手として本町をPRしながら、地域活動への参加など地域の担い手としての活躍にも期待をしており、活動の前提となる練習環境の整備や生活面など必要なサポートを行ってまいります。任期中の活動を経て、定住の希望がある場合には、任期満了後の生活に向けて就職などのサポートを行ってまいります。これまで多くの地域おこし協力隊を受け入れ活動し、またUIターン者の定住に結びつけた実績がある「かわもと暮らし」を中心に、町内で関係する団体はもとより、全日本女子野球連盟、国・県の地域おこし協力隊サポート機関などとも連携し、体制を構築してまいります。受け入れ態勢やサポート体制については、選手を招致する上でも本人の安心感につながる重要な事柄の一つでもありますので、引き続きチーム創設に向け準備を進め、まずは、選手に来ていただくことに力を注いでまいります。

議 長

1 番飯田議員。

1 番
飯田議員

わかりました。それでは、ちょっと具体的に任期中のサポート体制をより詳しく出来ているのであれば、お伺いしたいのですが、現在の受け入れ企業や活動内容については隊員が考えるところもあるかと思いますが、町として期待する活動内容はありますでしょうか。また、受け入れ企業など、具体的

1 番
飯田議員 　　に言わなくてもいいと思うんですが、こういうふうな形で、だいたい何社かあるっていうことを言っていたらと思います。

議　長 　　番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長 　　まずサポート体制についてです。選手、地域おこし協力隊の選手はですね、一般社団法人かわもと暮らしの方へ勤務をします。もちろんここへ所属をして、野球でのPRと地域での課題解決に向けた取り組みを進めていくということになっております。サポートの中心は、所属する勤務先となるかわもと暮らしが想定され、先ほども述べましたが、現在そういった新しいグループを創設して、そこでサポートをしていくことを考えております。また受け入れ企業というのは3年後の受け入れ企業につきましては、町内での人材不足というのは各企業に聞いたところ把握しておりますが、受け入れしたいという声は聞いております。これ具体的な条件があると思っております。このあたりについてはですね、実際にやはり選手が来て、そこから3年時間がありますので、選手の特性であったり雰囲気、地域への貢献、そういったところを見てもらいながらですね、改めて条件を、できれば昨今増えておりますアスリート企業というような、前回の全協、全員協議会の中で高良議員もご意見いただきましたけども、そういった企業が望ましいとは思っておりますが、野球を続ける場合はですね、そういった企業、これはですね、まずは町内企業と思っておりますが、もちろん県内の近隣市町の企業あたりもですね、もしそういったことを望まれる、そういった態勢を整えていただけるようなら、そういったところも含めてですね、ここについては現在、今、選手募集に力を注いでおりますので、選手が聞きながら並行して3年間の中で、しっかりとそういった態勢を整えていきたいと考えております。また活動内容について、最後質問が3つあったと思います。活動内容についての質問で3つだったと思いますけども、これにつきましては、冒頭からこのプロジェクトの当初から話をしてしておりますが、スポーツツーリズムの企画運営しながら、かわもと暮らしの方に所属しますので、観光グループなんかもございますので、こういったところで交流人口拡大、町の賑わいをつくっていく。それから新たな情報発信をしていく、こういったところを想定をしており、具体的な内容につきましてはですね、今検討を深めている、こういった段階でございます。

議　長 　　1 番飯田議員。

1 番
飯田議員 　　わかりました。次に、地域おこし協力隊の取り組みとして地域ブランドや地場産品の開発・販売・PRなどの地域おこしの支援があります。この取り組みを、担い手不足の事業者様のサポートや受け入れをしていただき資格が取れる、取得できる働き方を考えていければ、隊員のスキルアップにもつな

1 番
飯田議員 かりますし、もし野球人生を終えたとしても、その資格を活かせる職場が近くにあるだけでも、定住につながるのではないかと考えております。例えば、町内飲食店の大半は後継ぎがないため、将来的に閉店する可能性があります。今後の川本町の飲食業に支障が出るのが予測されています。そこへ隊員がサポートとしては飲食業の経験を積み上げ、調理師免許取得するとか、定住住みやすくなると思いますので、定住しない場合でも川本町での経験や資格取得が隊員のロコミにより、川本町はいろいろなサポート体制が整っているというふうな形で言っただけの町になると思っています。そこで、町として、任期終了後の継続した地域おこし協力隊の受け入れの計画については、何かお考えでしょうか。

議 長 番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長 任期中の活動、業務につきまして議員のほうから提案をいただき、まさに私もそういったことがですね、飲食店の事業承継でありますとか、商品開発でありますとか、非常に可能性の広がる夢のある話だと思って、そこにもってつなげていくことも一つの選択肢だと思っています。現段階での3年後の計画についてはですね、このプロジェクト自体のところでは来ていただくということが大切であると思っています。3年後の計画に向けて今イメージしておりますのは、まず、1年目、2年目については、しっかりとかわもと暮らしのほうで課した業務ミッション、これは町の賑わいづくりでありますとか、先ほど言われましたような商品開発、こういったところも、もしかしたら展開としてはできるのではないかなと思っています。一方で1年目、2年目のところでしっかりとですねその選手の方に、島根、川本のことも知っていただきながら、本当に定着へ迎えるということであればですね、3年目については先ほど申しましたような企業さんとのマッチングへ向けて、例えばインターンでありますとか、もしかしたら町内の飲食店さんの本当にそこにサポートに入っていく。あわせてそれに伴うような資格取得をしていただくような、1年目、2年目、3年目ですねやはり、しっかりと定住を希望される方についてはそこに向かっていけるような、また向かいたくなるような仕組みができれば良いなと思っています。ご提案いただきましたもうひとつの資格取得についてもですね、本当に選手募集、今、森山監督中心に学校を中心に歩いておりますけども、なかなか簡単ではないなと思っていますけども、やはりそういった資格取得制度に選手の保護者の方なんかも反応されておりますので、そういったカリキュラム的な組み立てを具体化していく段階に入っている、そういった状況でございます。

議 長 1 番飯田議員。

1 番 わかりました。ちょっと重複するかもしれませんが、地域おこし協力隊、

飯田議員 今後も継続的に地域おこし協力隊で女子野球クラブを続けるのか、または活動資金の基となるスポンサー様を入れて変更していくのか、どういうふうなお考えがあるのかどうか確認したいです。

議 長 番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長 この制度はですね、各自治体で人数上限とか人数制限がある制度ではなくて、さらに地方だけがですね、独自の自治体の発想・企画でですね、人と財源を呼び込める、優位な制度であります。議員の発言にも7,000人という話がありましたが、国はこれを1万人に持っていくということで、サポート体制などに対する交付金も、今年度拡充をされているところでございます。ですので、これまでの議会でも指摘があったように、引き続きこの制度は活用していきたいと考えております。ただですね、チームの運営に関しましては、これからはもしかしたら、協力隊任期終了後もこのチームで野球を続けたい、こういった選手が出てきた時にですね、やはりなかなかそのアスリート企業だけで賄えないとありますと、自主財源なりスポンサーなりを持ってくる。他の全国的なチームは皆そうやって、1,000万、2,000万、3,000万ぐらいの活動費を、スポンサーからねってバスを買ったりですねそういったこともしておられますので、将来的にはですね、やはり同じようにスポンサー企業・自主事業なども含めてですね展開をしながら、この制度と並行してより充実した活動ができるようにすることで、さらにですね町への貢献も出来ますでしょうし、チームとしての価値も高まって、選手招聘ができるものではないかと考えております。

議 長 1番飯田議員。

1番飯田議員 はい、課長が言われましたように今後はやはり、スポンサーが私は必要になってくるだろうと、まあ必要にしないとイケないっていう状況になってくると思っています。そこで今いろんな企業様がPRですね、スポンサーとして入られてる女子野球クラブチームもありますが、今後はですね川本町もそういうふうな形になっていくと思えます。女子野球タウン構想で嬉野市っていう佐賀県にあるんですが、ここにも女子野球部があります。町民に分かりやすいように、スポンサーでも分かりやすいように説明があると思うんですが、もうホームページのほうに構想をPDFにてアップされております。こういったことを、もっとどんどんして行って、町の方々、若い方、女子野球部の方、見ていただくことは早急にできるものなのではないでしょうか。

議 長 番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま 女子野球日程に合わせてですね、私も嬉野市の女子野球タウン構想のホー

ちづくり推
進課長

ムページ等で見させていただいて、非常にわかりやすく表現されているなど
思っております。本町におきましてはですね、先日の全員協議会でお話しさ
せていただきましたように、今月から全日本女子野球連盟の女子野球タウン
認定の申請の準備を進めております。これもですね、これは相手さんがあり
ますけども、7月末のところですね、認定を受けたいというような希望を持
ちながら進めておりますので、タウン構想につきましてはですね、そのタ
イミングに合わせて、認定を受けられるタイミングに合わせて、認定申請の
内容含めて簡潔に分かりやすく住民の人に伝えていきたいと考えておりま
す。またスポンサーにつきましてもですね、私、将来的という話をしました
けども、今年の下期ですね、チームがチーム名今募集してます。これも7月
です。それから、先ほどの選手、ユニフォームなどが見えてきたところで
ですね、やっぱり町内の企業さん、またはこれ県内も含めて、もっと言えば
ですね全国的それから昨年からうちも取り組みを始めています企業版ふるさと
納税、このような取り組みにも非常に共感を得やすいプロジェクトではない
かなと思っておりますので、議員のご意見のあったように、やっぱり分かりや
すく、うちの町が何をしようとしているのか、女子野球クラブがどんなチ
ームになっていくのか、地域にどう貢献していくのか、こんなところを分かり
やすくですね、夏以降のところで見える化していきたいなと思っております。

議 長

1 番飯田議員。

1 番
飯田議員

わかりました。そういうPDFとかも説明文、構想ですが、やはり今は野
球経験者とか、皆様の有識者様の中での話し合いをされていると思うんで
すが、やはり町民の方の意見も入れるような検討会みたいなもの、そうい
ふような構想を立てた、一緒にこういうふうな形でつくってつくり上げていき
たいという構想の検討会とかというものは、これからあるのでしょうか。

議 長

番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

議員御意見がございました、まさにこのチームの運営ですね、運営に関し
ましても、このプロジェクトに関しましても、野球経験者・未経験者、どの
カテゴリーまでやったものを経験者ととらえるかというのは非常に微妙なと
ころではございますが、やっぱり幅広い方のご意見をいただきながら進めて
いくものだと感じております。クラブ運営につきましてはですね、このチ
ームは、地域おこし協力隊制度など、協力隊じゃない選手ももちろん受け入れ
をしていきます。主には、一般社団法人かわもと暮らしへ運営を、そういつ
た制度を使ったもので財源をもって、かわもと暮らし情報センターに委託し
ていくという、そういったスキームになっておりますので、この運営につい
ては、かわもと暮らしの方になります、が中心になります。その中でも理事
長を初めですね、先ほど言いました5月に着任したマネージャー的スタッフ

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

もですね、野球未経験者でございますので、またあの、かわもと暮らしの中のスタッフを見ましてもですね、UIターン者でありますとか、年齢、またこれまでのご経験もかなり幅広く多様な方がおられますので、まずは、今の運営を行うかわもと暮らしの中でしっかり、多様な意見を取り入れながら運営をしていき、また専門的なところですね、冒頭の議員のご提案のあった飲食店でありますとか空き店舗、商品開発といったところはですね、商工会さんでございましたり、町内の既にそういった取り組みをしておられる団体・事業者、このあたりともですね、しっかり協働的な取り組みができれば、そのような視点での運用を期待するところでございます。まさにですね、本当この取り組みは町を巻き込んで取り組んでいくことで、この取り組みがですね、長く継続できるものだと考えておりますので、運営主体を中心にですね運営主体の一般社団法人のかわもと暮らしを中心に、そういった声も積極的に聞きながら、少しですね今は選手募集のところに注力していますけども、しっかりと聞きながら取り組みを進めていきたいと、いくことになるかと考えております。

議 長

1 番飯田議員。

1 番
飯田議員

わかりました。ちょっとご提案ですが、プロ野球カードというものがあります。お菓子の中に選手のカードが入っている商品があるんですが、茨城県では変わったことがあります。お菓子の中に「女将カード」というものが入ってます。茨城県が進める観光企画の一環で、茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合が作成し、売り切れるという状況が起こっている、今第2弾まであるみたいなんです。そういったPRの仕方があるんですけども、川本町でもPRにつながるように、今後の企画として女子野球クラブカードみたいなものを作成したりとかですね、そのカードをエゴマの特産品、エゴマ煎餅があると思うんですが、その中に入れて、要するに道の駅とか、地域商店、本町の各イベント、要するに多分イベントとかされるはずだと思います。地域開催の大会などで販売しPR活動できるのではないかと考えておる状況でございます。単なるカードではなくて、例えば川本町で使えるJコイン、ポイントカードに記載され、ダウンロードすれば取得できるとか、町で使えるポイントですね。例えば、シリアルナンバーをカードに記載したりとかっていう形でいろいろなことが出来、シリアルナンバーを取得すれば、選手の色紙、サインがもらえとか、いろんな今後の、1年か選手が来ればですけども、こういった活動もPR活動でできるのではないかと考えております。少しちょっと話がずれたんですが、最後にですね、本町で女子硬式野球チームができることにより、町民の不満と不安を抱かせないよう、町民と一致団結して応援したくなる女子野球チームを願っておる次第でございます。そこで頑張ってもらって町を盛り上げてほしいと思えるような運営企画を、今後は町民に説明を交えながら進めていきたい。また将来的に、地域おこし協力隊制度を活

1 番
飯田議員 用出来ない状況に陥っても、女子硬式野球チームが継続できるような計画を
早めに練っていただきたいと思っております。終わります。

議 長 以上で、「女子硬式野球クラブ創設に向けた進捗状況について問う」の質
問を終了します。

々 これをもちまして、飯田議員の一般質問を終了します。

々 以上をもって、本日の議事日程は全て終了しました。

これをもちまして、本日は散会とします。お疲れさまでした。

(午後2時38分)

この会議録は、川本町議会事務局長 中嶋 則行 が記載したもので、その内容におい

て、正確である旨を証するためここに署名をする。

川本町議会議長

川本町議会議員

川本町議会議員